

令和元年度全国学力・学習状況調査 学力・学習状況充実プラン

【中学校版】

1	中学校の授業改善に向けて	
(1)	正答数分布の傾向	1
(2)	質問紙調査の傾向	2
(3)	授業改善の方向性	7
2	中学校国語の課題解決に向けて	
(1)	国語の傾向	8
(2)	国語各設問の内容・結果と対応する領域	9
(3)	国語の個別の課題と改善の方向性	10
3	中学校数学の課題解決に向けて	
(1)	数学の傾向	11
(2)	数学各設問の内容・結果と対応する領域	12
(3)	数学の個別の課題と改善の方向性	13
4	中学校英語の課題解決に向けて	
(1)	英語の傾向	14
(2)	英語各設問の内容・結果と対応する領域	15
(3)	英語の個別の課題と改善の方向性	16
5	授業アドバイスシート	
(1)	授業アドバイスシート中学校国語 (①～③)	17
(2)	授業アドバイスシート中学校数学 (①～③)	26
(3)	授業アドバイスシート中学校英語 (①～③)	35
(4)	授業等アドバイスシート (web 掲載予定)	
	◆学力定着事業推進地区の取組	
	◆アクティブ・ラーニング推進地区の取組	

※授業改善のための一例です。

愛知県教育委員会義務教育課

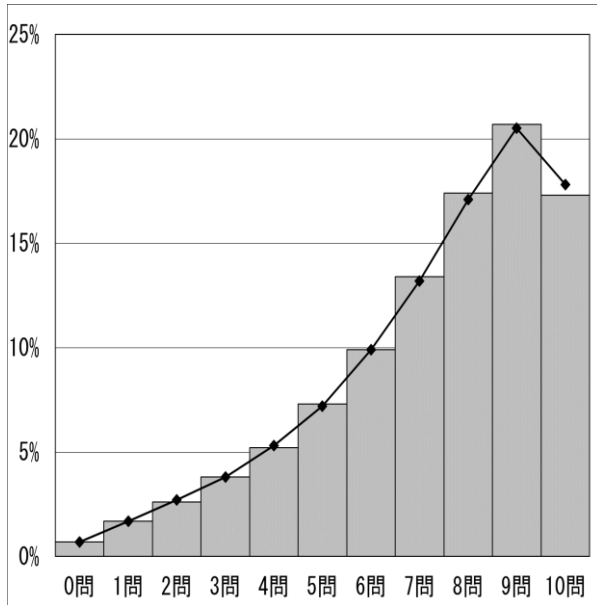
令和2年1月



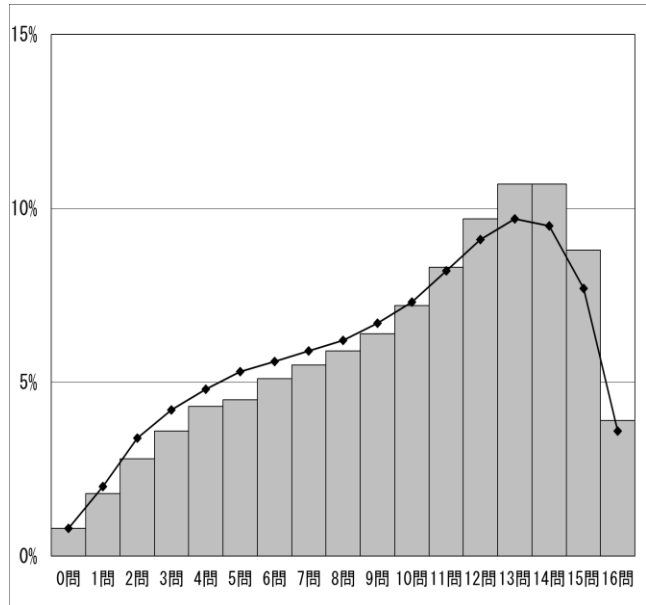
1 中学校の授業改善に向けて

(1) 正答数分布の傾向

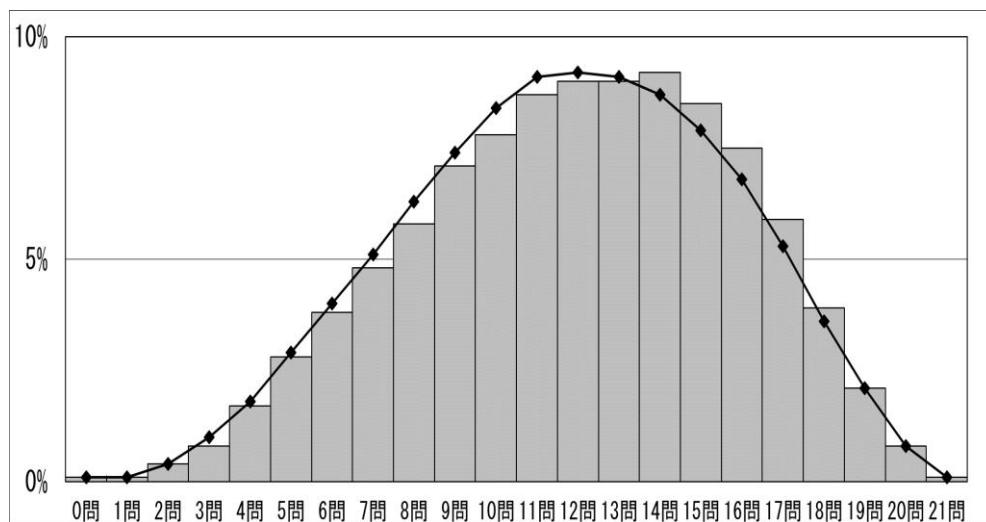
中学校国語



中学校数学



中学校英語



棒グラフ
 ……愛知県
 折れ線グラフ
 ……全国

本年度より、これまで分けて実施していた、知識・技能等（A問題）及び活用する力（B問題）を一体的に問う問題に変更されました。数学と本年度初めて実施された英語の調査の正答数分布については、全国と比較して下位層が少なく上位層が多い傾向がありました。国語については全国とほぼ同等でした。しかしながら、どの教科の正答数分布もグラフが広範囲に広がっており、基礎的・基本的な学力の定着に課題がある生徒がいることが危惧されます。この課題を解決するために、他の学習や生活の場面で活用することを意識しながら、新しい知識・技能を習得させることで、基礎的な学力及び活用する力を身に付けていくことが大切です。

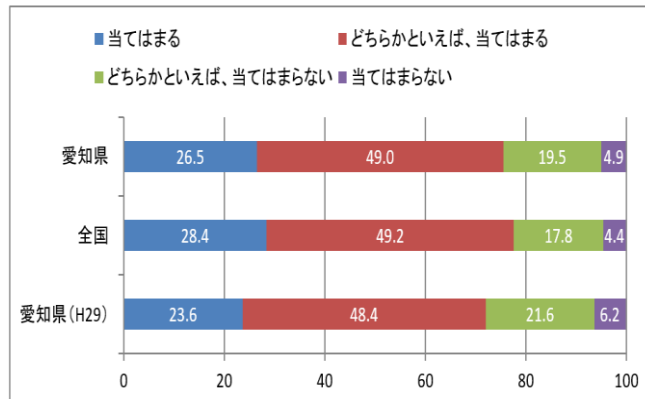
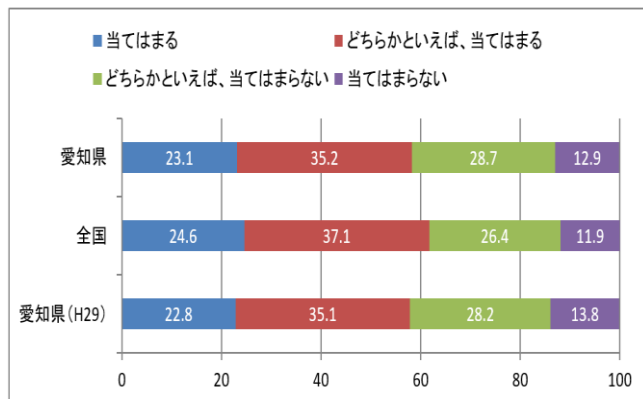
今回の調査をもとに、子供たちのつまづくポイントを分析し、日々の授業を改善していきましょう。

(2) 質問紙調査の傾向

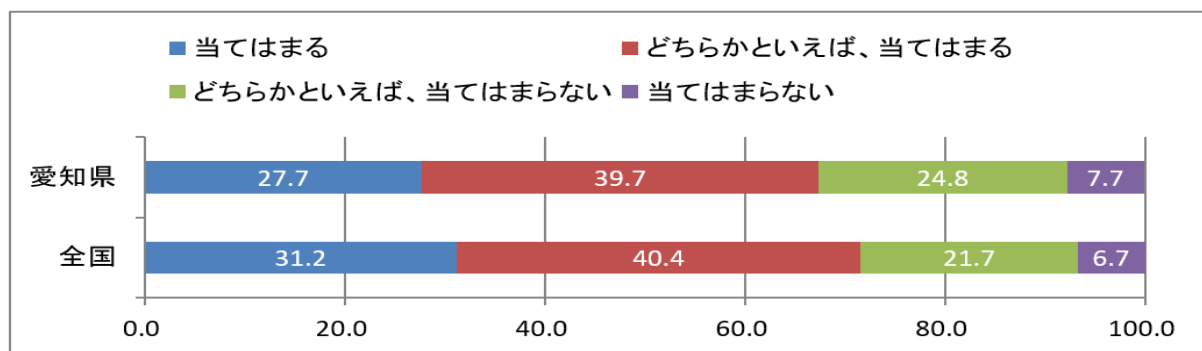
① 国語に対する生徒の関心・意欲及び指導方法と学力の関係

生徒質問A 国語の勉強は好きですか

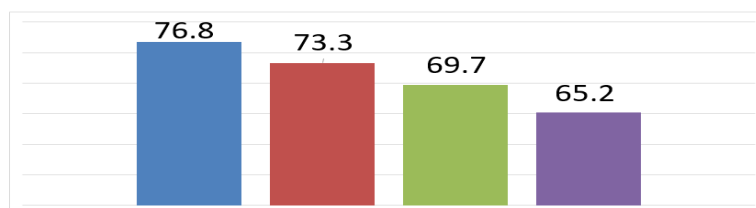
生徒質問B 国語の授業の内容はよくわかりますか



生徒質問C 国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようと考えていますか



質問Cの回答別に集計した、国語の平均正答率（愛知県：％）

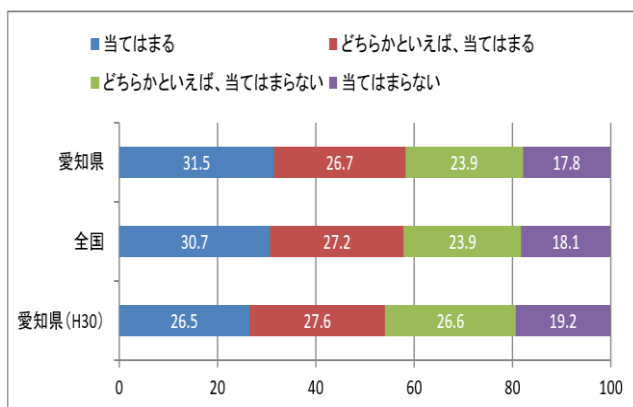


生徒質問紙調査の国語に関する項目では、関心・意欲に対する質問A、授業の理解度に対する質問Bともに、同じ質問項目のあった平成29年度に比べて肯定的な回答の割合が増え、改善の傾向が見られました。また、質問Cで「国語で学習したことを生活の中で活用しようとしている」と肯定的に回答した生徒は、そうでない生徒に比べて高い正答率を示すことが、クロス集計からも明らかとなっています。

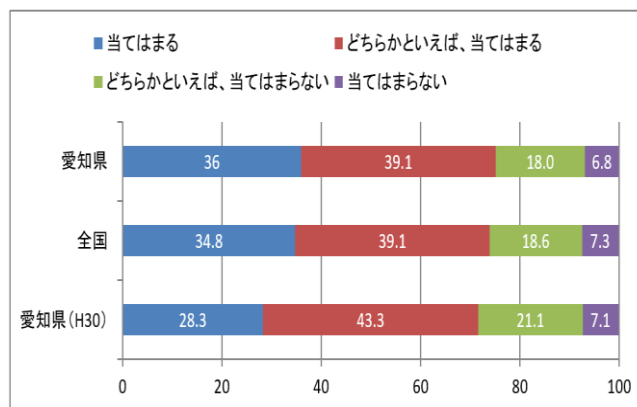
今回の設問では、新聞の内容を読み取ったり、友達との話合いの発言を捉えたりする問題に、課題がありました。日常の生活を意識した学習に取り組むことが授業改善の一つのポイントと考えます。学習した言語事項を用いた言語活動を行う場面を意図的に設けることが大切です。

② 数学に対する生徒の関心・意欲及び指導方法と学力の関係

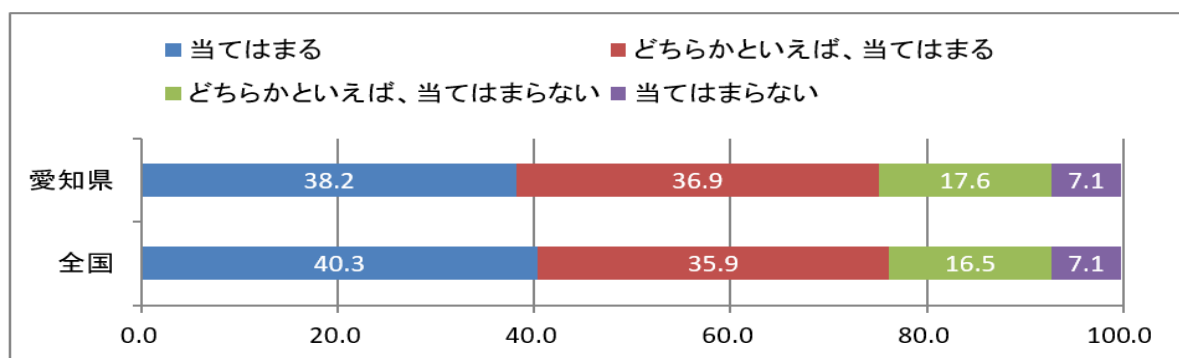
生徒質問D 数学の勉強は好きですか



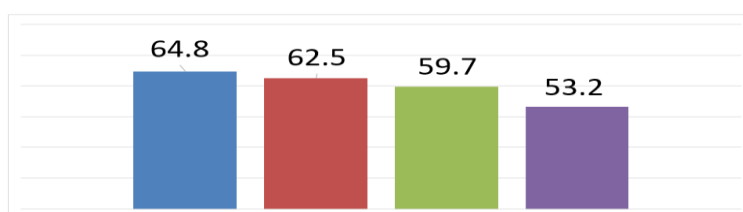
生徒質問E 数学の授業の内容はよく分かりますか



生徒質問F 数学の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思いますか



質問Fの回答別に集計した、数学の平均正答率（愛知県：％）

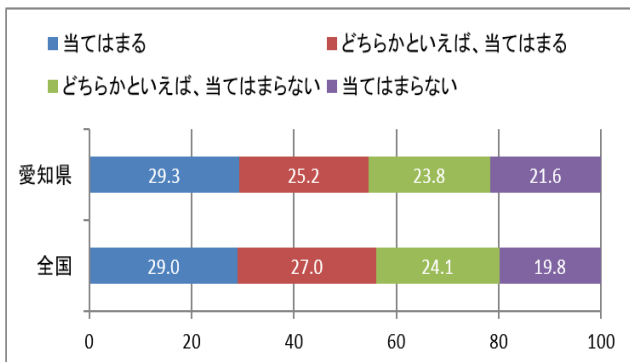


生徒質問紙調査の数学に関する項目では、質問D、質問Eともに前回調査の平成30年度に比べて関心・意欲、授業理解の点で改善の傾向が見られ、肯定的な回答が全国を上回りました。また、質問Fで「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つ」と肯定的に回答した生徒は、そうでない生徒に比べて高い正答率を示すことが、クロス集計からも明らかとなっています。

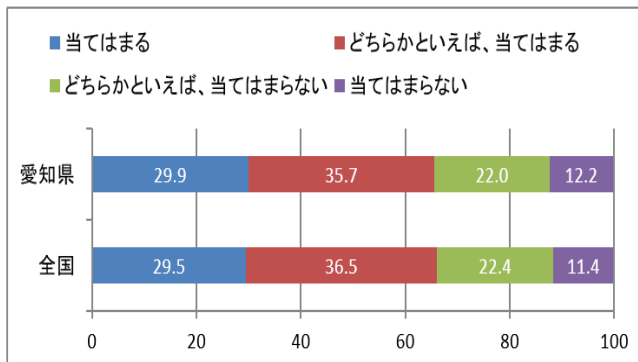
日常生活や社会の事象における問題を解決するために、事象を数理的に捉えたり目的に応じたデータを収集したりするとともに、それに基づいて考察・判断する指導を取り入れることが、数学の授業改善の一つのポイントと考えます。

③ 英語に対する生徒の関心・意欲及び指導方法と学力の関係

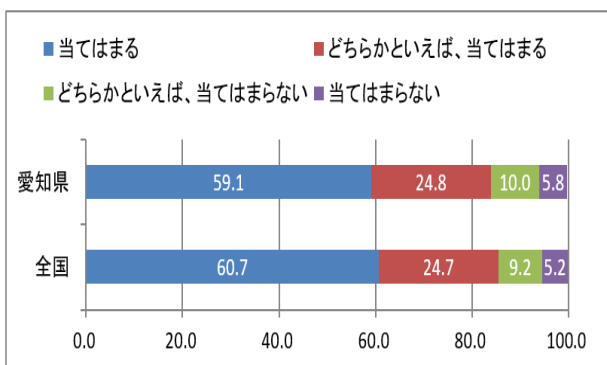
生徒質問G 英語の勉強は好きですか



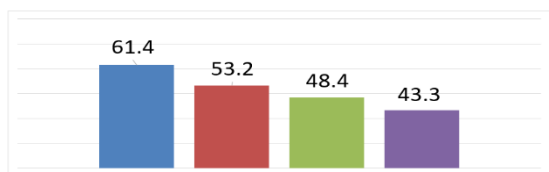
生徒質問H 英語の授業の内容はよくわかりますか



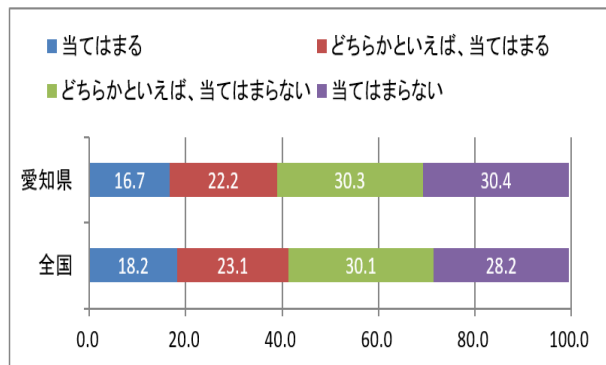
生徒質問I 英語の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思いますか



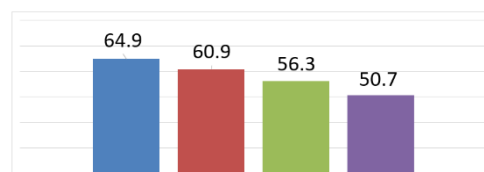
回答別に集計した、英語の平均正答率
(愛知県：%)



生徒質問J 将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか



回答別に集計した、英語の平均正答率
(愛知県：%)

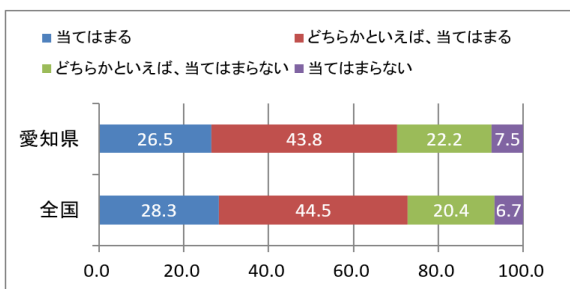


生徒質問紙調査の英語に関する項目では、質問G、質問Hともに全国の回答と同等でした。質問H「英語の授業はよくわかりますか」との質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、65%を超えていますが、国語や数学と比べて約10ポイント下回っています。また、質問I、Jで英語の社会での有用性を感じていたり、将来積極的に英語に関わろうとする意識をもっていたりする生徒は、そうでない生徒に比べて高い正答率を示すことが、クロス集計からも明らかとなっています。

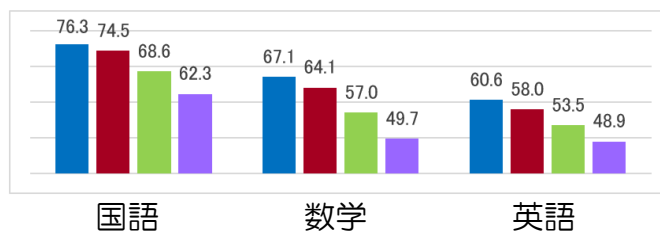
複数の情報を基にして英文の内容をつかんだり表現したりできるよう、ある程度まとまりのある文章を読み取ったり、聞いたり、書いたりする活動を取り入れることが、英語の授業改善の一つのポイントと考えます。年間を通じ継続して英語に触れる機会を設けることが大切です。

④ 主体的・対話的で深い学びの状況と学力の関係

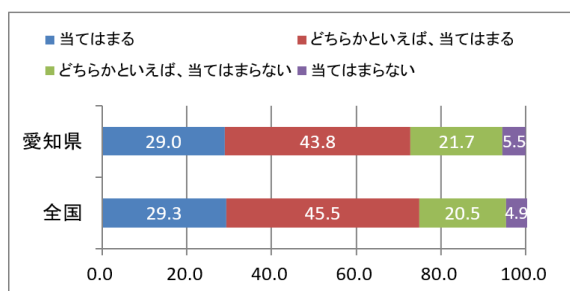
生徒質問K 生徒の間で話し合う活動を通じて、考えを広めたり深めたりしていますか



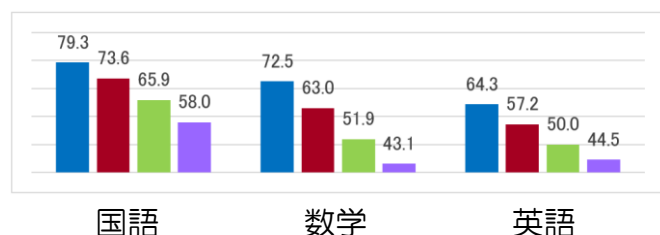
質問の回答と各教科の平均正答率（愛知県：％）



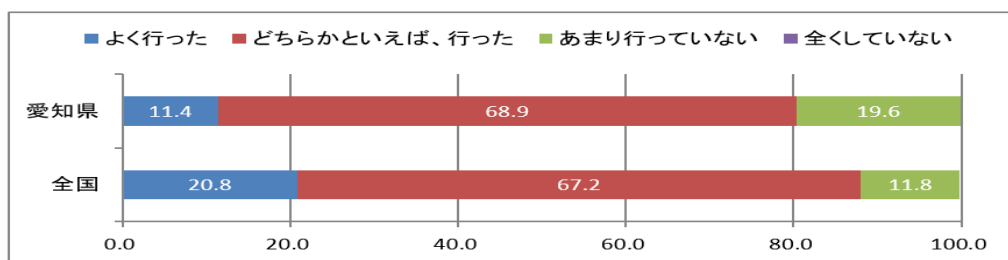
生徒質問L 1、2年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか



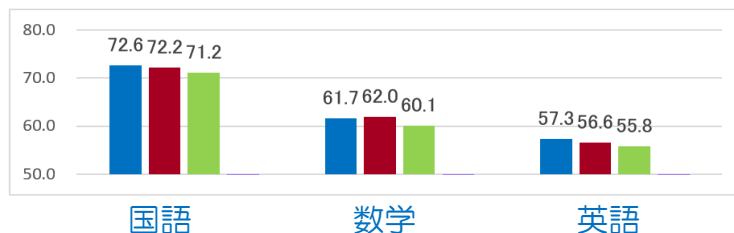
質問の回答と各教科の平均正答率（愛知県：％）



学校質問M 習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善をしましたか



質問Mの回答別に集計した、各教科の平均正答率（愛知県：％）

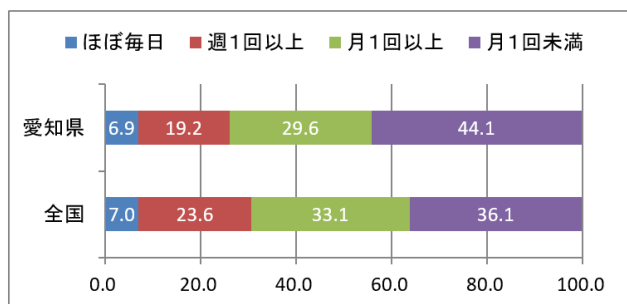


生徒質問紙調査の「主体的・対話的で深い学び」に係る項目について、質問Kや質問Lを肯定的に回答した生徒の割合は、全国と同程度の結果です。一方、学校に対する質問Mで、「習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善をした」と肯定的に回答した学校の割合は、80.3%でしたが、昨年度より減少し、全国より少ない結果となりました。

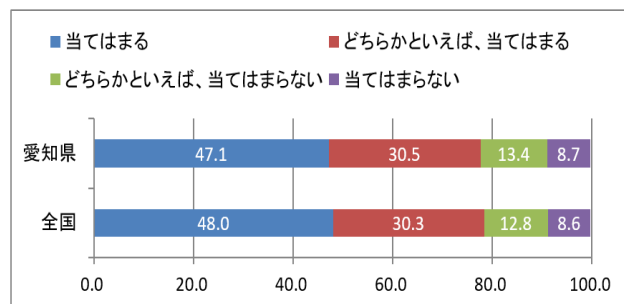
これらの質問に肯定的に回答した生徒や学校の方が、平均正答率が高いという傾向が見られます。新学習指導要領を意識し、「主体的・対話的で深い学び」を視点にした授業改善を続けていきたいと思います。

⑤ ICTを活用した学習状況と教育の情報化について

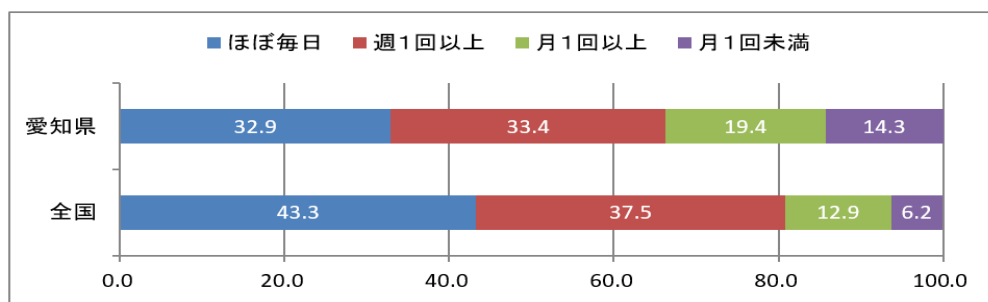
生徒質問N 1,2年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか



生徒質問O 授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思いますか



学校質問P 調査対象学年の生徒に対する指導において、前年度に、教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）などのICTを活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか



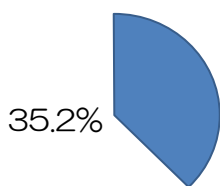
資料 教育の情報化の実態について、愛知県の現状（平成30年度調査）

教育用コンピュータ
1台当たりの
生徒生徒数



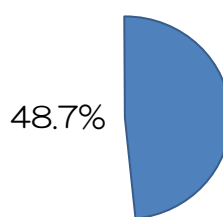
〈全国平均：5.4人〉

普通教室の
無線LAN整備率



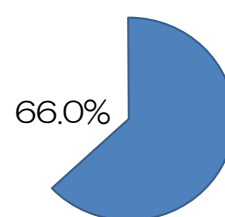
〈全国平均：40.7%〉

普通教室の
大型提示装置
整備率



〈全国平均：51.2%〉

教員のICT
活用指導力



〈全国平均：69.7%〉

質問紙調査のICTに関する項目では、生徒に対する質問N、学校に対する質問P共に、全国を下回っていました。一方、質問Oにおいては「授業でもっとICTを活用したい」と肯定的に回答する生徒が77.6%にのぼり、生徒のICT活用への興味・関心は高くなっています。

ICTを活用した授業を推進することにより、分かりやすい授業や「主体的・対話的で深い学び」の実現、生徒の情報活用能力の向上が図られると考えます。各学校で整備されたICTを有効に活用して、学習活動の充実を図りましょう。

(3) 授業改善の方向性

全国学力・学習状況調査の分析から改善のための方向性をまとめました。以下のポイントを参考にして、各市町村・学校における課題の改善策を具体的に立案しましょう。
また、別添の授業等アドバイスシートも活用して、授業改善を図りましょう。

1 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を活用・探求へつなげよう

生徒が基礎的な知識及び技能を確実に習得するとともに、それらを活用して、物事の中から問題を見だし解決につなげていく探究学習や、自分の考えを伝え合う学習などを取り入れる中で、思考力、判断力、表現力を育みましょう。

2 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善をしよう

授業改善を進めるに当たっては、以下のような観点をもって取り組みましょう。

- ・ 生徒が学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返って次の学習につなげたりするなど、自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか
- ・ 生徒が友達、教職員、地域の方々、先哲との対話により、自分の考えなどを広げたり、深めたりする場面をどこに設定するか
- ・ 得た知識を関連付けて理解したり、日常の事象から問題を見だし解決策を考えたり、自分の思いを基に創造したりするなど、学びの深まりを作り出す場面をどのように組み立てるか

3 ICTを適切に活用し、学習活動の充実を図ろう

各学校のICT環境を整えるとともに、授業や学校の活動の中で効果的にICTを活用し、生徒の理解を深めたり、興味を高めたりしましょう。
また、ICTを活用した生徒の学習活動を通じ、生徒の情報活用能力や論理的思考力の伸長を図りましょう。

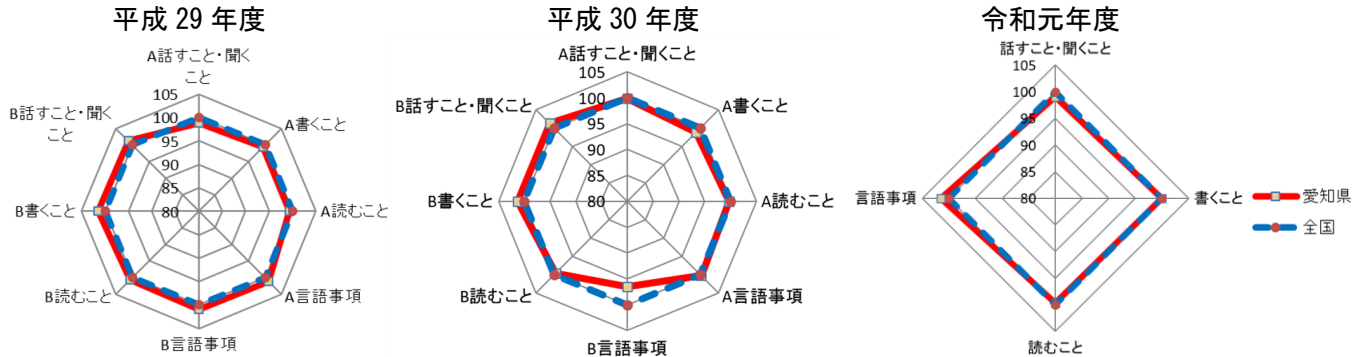
2 中学校国語の課題解決に向けて

(1) 国語の傾向（県の平均正答率は整数値で表示）

平均正答率：愛知県 73%（全国 72.8%）

ア 領域等・評価観点・問題形式別で見た傾向（全国との比較から）

＜全国を基準(100)とした比較＞



＜領域等・評価の観点・問題形式ごとの全国平均正答率との差＞(%)

		平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度		令和元年度
		A 知識	B 活用	A 知識	B 活用	A 知識	B 活用	
教科全体の平均正答率		-0.1	-0.1	/	/	/	/	/
領域等	話すこと・聞くこと	-0.4	/	-0.9	0.9	-0.1	1.0	-0.7
	書くこと	-1.4	0.2	-0.6	0.9	-0.8	0.4	0.0
	読むこと	0.0	-0.1	-0.5	0.6	-0.2	-0.2	-0.2
	言語事項	0.1	/	0.9	0.4	0.2	-1.7	1.0
評価の観点	① 国語への関心・意欲・態度	/	0.2	/	1.4	/	0.2	-0.2
	② 話す・聞く能力	-0.4	/	-0.9	0.9	-0.1	1.0	-0.7
	③ 書く能力	-1.4	0.2	-0.6	0.9	-0.8	0.4	0.0
	④ 読む能力	0.0	-0.1	-0.5	0.6	-0.2	-0.2	-0.2
	⑤ 言語についての知識・理解・技能	0.1	/	0.9	0.4	0.2	-1.7	1.0
問題形式	選択式	-0.2	-0.3	-0.3	-0.1	-0.2	0.2	0.0
	短答式	-0.1	-0.2	1.2	2.7	0.5	/	-0.1
	記述式	/	0.2	/	1.4	/	0.2	-0.2

- 各領域、観点、問題形式ともに平均正答率は、全国と同程度である。
- 「言語事項」領域が全国より 1.0 ポイント高く「語の一部を省いた表現についての説明として適切なものを選択する」設問については、全国より 1.9 ポイント高い。
- △ 「話すこと・聞くこと」領域が全国より 0.7 ポイント低く「話し合いでの発言の役割について説明したものとして適切なものを選択する」設問については、全国より 0.9 ポイント低い。

イ 無解答率から見た傾向

国語の無解答率の平均値は 2.6%（全国 2.6%）で、昨年度（A・Bともに 3.2%）に比べて向上したが、記述式の設問で、無回答率が高かった（設問番号 2 三が 8.7%、設問番号 3 二が 7.9%）。平均正答率が 60%未滿で無回答率が 10%以上あった設問はなかった。

(2) 中学校国語各問題の内容・結果と対応する学年等

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				正答率(%)		愛知ー全国	対応する教科書の学年とページ
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	愛知県(公立)	全国(公立)		
1一	「日本の文化の中には、海外でも広く知られているものがあります。……第一回は、弁当です。」について説明したものと適切なものを選択する	文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつ			2ウ		62.6	63.9	-1.3	②P.42 ②P.116 ②P.157
1二	「海外に広がる弁当の魅力」で述べられている、弁当の魅力として適切なものを選択する	文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える			1イ		62.5	61.5	1.0	①P.118 ①P.164
1三	「みんなの短歌」に掲載されている短歌の中から一首を選び、感じたことや考えたことを書く	文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつ			1オ		90.9	91.2	-0.3	①P.88
1四	「声の広場」への投稿を封筒で郵送するために、投稿先の名前と住所を書く	封筒の書き方を理解して書く			1(2)ア		56.7	56.8	-0.1	①P.290
2一	話し合いでの発言の役割について説明したものと適切なものを選択する	話し合いの話題や方向を捉える	1オ				79.5	80.4	-0.9	①P.173 ①P.174
2二	話し合いでの発言について説明したものと適切なものを選択する	相手に分かりやすく伝わる表現について理解する	1ウ				68.8	69.7	-0.9	①P.56
2三	話し合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていないこと」について自分の考えを書く	話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ	1オ				60.4	60.4	0.0	①P.173 ①P.174
3一	意見文の下書きに書き加える言葉として適切なものを選択する	書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する		2エ			87.6	87.4	0.2	②P.111 ②P.172
3二	広報誌の一部にある情報を用いて、意見文の下書きに「魅力」の具体例を書き加える	伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く		1ウ			77.5	77.8	-0.3	①P.180
4	語の一部を省いた表現についての説明として適切なものを選択する	語の一部を省いた表現について、話や文章の中での適切な活用の仕方を理解する			1(1)イ(ウ)		80.6	78.7	1.9	①P.65

(3) 中学校国語の個別の課題と改善の方向性

全国学力・学習状況調査の分析から改善のための方向性をまとめました。以下のポイントを参考にして、各市町村・学校における課題の改善策を具体的に立案しましょう。また、別添の授業アドバイスシート等も活用して、授業改善を図りましょう。

1 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめる活動の充実を図ろう

設問1「新聞の見出しについて説明した内容として最も適切なものを選択する」の平均正答率は62.6%で、全国と比較して-1.3ポイントの差があった。



- ① 目的や意図に応じて、自分の根拠を明確にしながらかえをまとめ、交流したり書いたりする活動を設定しましょう。
- ② 文章の構成や展開、表現の仕方について、自分の考えを支える根拠となる段落や部分などをもとにまとめるよう指導しましょう。

授業アドバイスシート

中学校国語① 参照

<取組例>

- ・「1年生に職場体験の魅力を伝えるチラシを作ろう」

2 話合いの話題や方向を捉えて、自分の考えをもち、まとめる場面を設定しよう

設問2三「話合いの流れを踏まえて、自分の考えを書く」の平均正答率は60.4%で、全国と同等であったものの、無解答率が8.7%と高かった。



- ① 話合いの仕方について見通しをもった上で話し合う活動を設定しましょう。
- ② 話合いの途中で状況を確認し、必要に応じて進め方を修正して話し合うことを通して、話題や方向を的確に捉え、自分の考えをもてるようにしましょう。

授業アドバイスシート

中学校国語② 参照

<取組例>

- ・『話し合いのデザインシート』を用いて話し合おう」

3 自分が伝えたいことについて、根拠を明確にして意見文を書く学習に取り組もう

設問3二「意見文の下書きに、地域の店の魅力を書き加える」の平均正答率は77.5%で、全国と比較して-0.3ポイントの差があり、無解答率も7.9%と高かった。



- ① 読み手を意識しながら、資料の情報を根拠として意見文を書く学習を設定しましょう。
- ② 書いた文章を観点に沿って読み合い、よい点や改善点について交流することを通して、根拠を明確にして伝えたいことを書く力が身に付くようにしましょう。

授業アドバイスシート

中学校国語③ 参照

<取組例>

- ・「読み手を意識しながら、意見文を書こう」

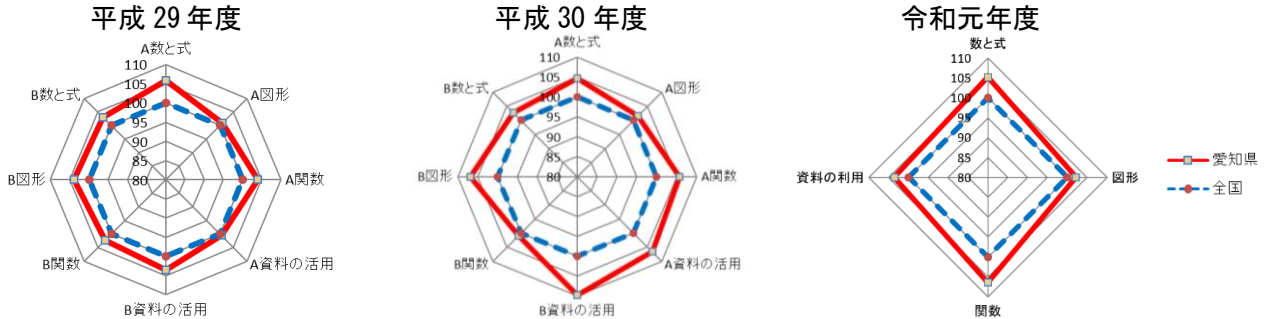
3 中学校数学の課題解決に向けて

(1) 数学の傾向（県の平均正答率は、整数値で表示）

平均正答率：愛知県 62%（全国 59.8%）

ア 領域等・評価観点・問題形式別で見た傾向（全国との比較から）

<全国を基準（100）とした比較>



<領域・評価の観点・問題形式ごとの全国平均正答率との差> (%)

全国平均正答率との差 (%)		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
		A知識	B活用	A知識	B活用	A知識	B活用		
教科全体の平均正答率		2.7	2.4						
領域	① 数と式	2.8	3.1	4.1	1.4	3.3	1.4	3.3	
	② 図形	1.6	0.6	0.5	1.8	0.8	3.2	1.6	
	③ 関数	4.1	2.8	2.3	1.1	3.2	0.5	2.6	
	④ 資料の活用	3.4	1.0	0.3	1.7	4.3	3.7	2.0	
評価の観点	数学的な見方や考え方				1.2		1.9	1.9	
	数学的な技能	3.2	2.3	3.3	3.3	3.6	3.2	3.8	
	数量や図形などについての知識・理解	2.3	2.5	0.5	0.4	2.0		2.5	
問題形式	選択式	1.6	2.2	0.8	0.9	1.9	1.3	1.8	
	短答式	3.5	2.7	2.8	2.3	3.3	2.7	3.4	
	記述式		2.3		1.2		2.1	1.6	

- 領域別、評価の観点別、問題形式別、全てで全国を上回っている。特に「数と式」、「関数」の領域は全国を大きく上回っている。
- △ 「資料の傾向を的確に捉え、数学的な表現を用いて理由を説明することができる」の設問では全国を正答率を1.6ポイント下回っている。
- △ 記述式の設問の正答率は全国より1.6ポイント上回っているものの、48.7%と低く、無解答率も16.3%と高い。

イ 無解答率から見た傾向（正答率が60%未満で、無解答率が10%以上の設問） (%)

番号	領域	形式	正答率	無解答率	番号	領域	形式	正答率	無解答率
4	③	短答	50.9	10.3	6 (2)	②	記述	38.3	12.0
7 (3)	②	記述	55.3	16.4	8 (2)	②	記述	39.2	20.4

無解答率の平均値は6.8%（全国7.3%、30年度の愛知はA問題2.7%、B問題11.6%）であった。平均正答率が60%未満で無解答率が10%以上の設問は4問であり、改善傾向が続いているものの、図形領域や記述式の設問において無回答が多い傾向がある。

(2) 中学校数学各問題の内容・結果と対応する学年等

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				正答率(%)		愛知 全国	対応する 教科書の学年 とページ
			数 と 式	図 形	関 数	資 料 の 活 用	愛 知 県 (公 立)	全 国 (公 立)		
1	a と b が正の整数のとき、四則計算の結果が正の整数になるとは限らないものを選ぶ	数の集合と四則計算の可能性について理解している	1(1) ア				65.6	62.2	3.4	①P. 45
2	連立二元一次方程式 $\begin{cases} y = -2x + 1 \\ y = x - 5 \end{cases}$ を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	2(2) ウ				74.4	70.1	4.3	②P. 38
3	$\triangle ABC$ を、矢印の方向に $\triangle DEF$ まで平行移動したとき、移動の距離を求める	平行移動の意味を理解している		1(1) イ			85.3	83.6	1.7	①P. 144
4	反比例の表から式を求める	反比例の表から、 x と y の関係を式で表すことができる			1(1) エ		50.9	48.9	2.0	①P. 121
5	2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも表の出る確率を求める	簡単な場合について、確率を求めることができる			2(1) ア		77.7	72.8	4.9	②P. 150
6(1)	冷蔵庫Aの使用年数と総費用の関係を表すグラフについて、点Pの y 座標と点Qの y 座標の差が表すものを選ぶ	グラフ上の点Pの y 座標と点Qの y 座標の差を、事象に即して解釈することができる			2(1) イ、エ		41.1	38.8	2.3	②P. 81
6(2)	冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、式やグラフを用いて、2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる			2(1) イ、エ		38.3	34.7	3.6	②P. 78
7(1)	証明で用いられている三角形の合同条件を書く	証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している			2(2) ア		77.7	75.8	1.9	②P. 108
7(2)	ある予想に対して与えられた図が反例となっていることの説明として正しいものを選ぶ	反例の意味を理解している			2(2) イ		77.8	77.2	0.6	②P. 126
7(3)	四角形ABCDがどのような四角形であれば、 $AF = CE$ になるかを説明する	結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる			2(2) ウ		55.3	53.3	2.0	②P. 140
8(1)	読んだ本の冊数と人数の関係をまとめた表から、読んだ本の冊数の最頻値を求める	資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる			1(1) ア		62.5	57.9	4.6	①P. 210
8(2)	「1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多い」という考えが適切ではない理由を、ヒストグラムの特徴を基に説明する	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる			1(1) イ		39.2	40.8	-1.6	①P. 212
8(3)	図書だよりの下書きに書かれているわかったことの根拠となる値として適切なものを選ぶ	問題解決をするためにどのような代表値を用いるべきかを判断することができる			1(1) ア、イ		53.5	53.6	-0.1	①P. 212
9(1)	説明をよみ、 $6n + 9$ を $3(2n + 3)$ に変形する理由を完成する	与えられた説明を振り返って考え、式変形の目的を捉えることができる			2(1) イ、ウ		61.5	57.4	4.1	②P. 28
9(2)	連続する5つの奇数の和が中央の奇数の5倍になることの説明を完成する	事柄が成り立つ理由を説明することができる			2(1) イ、ウ		61.8	59.7	2.1	②P. 28
9(3)	連続する4つの奇数の和が $4(2n + 4)$ で表されたとき、 $2n + 4$ はどんな数であるかを選ぶ	総合的・発展的に考察し、得られた数学的な結果を事象に即して解釈することができる			2(1) イ、ウ		72.3	69.6	2.7	②P. 28

(3) 中学校数学の個別の課題と改善の方向性

全国学力・学習状況調査の分析から改善のための方向性をまとめました。以下のポイントを参考にして、各市町村・学校における課題の改善策を具体的に立案しましょう。また、別添の授業アドバイスシート等も活用して、授業改善を図りましょう。

1 事象を読み取り、表や式、グラフを関連付け、問題解決の方法を説明する学習に取り組もう

設問6の(1)「グラフ上の点Pのy座標と点Qのy座標の差が表す事象を選択する」の平均正答率は41.1%であり、全国を上回ったものの低い正答率であった。



- ① 具体的な事象を、表や式、グラフと関連付けて捉える課題を設定しましょう。
- ② 問題解決の方法を話し合ったり、説明したり、振り返ったりする活動を取り入れるようにしましょう。

授業アドバイスシート

中学校数学① 参照

<取組例>

- ・「どちらの総費用が少ないか考えよう」

2 資料の傾向を捉え、推測される事柄を、数学的な表現を用いて説明できるようにしよう

設問8の(2)「資料から推測される事柄が適切ではない理由をヒストグラムの特徴を基に数学的な表現を用いて説明する」の平均正答率は39.2%と低く、全国と比較しても-1.6ポイントの差があった。



- ① 身近な生活の事象を取り上げ、資料の分布の傾向を読み取り、事象について批判的に考察し判断する機会を設定しましょう。
- ② 推測される事柄とその根拠を、代表値を用いて説明できるように、事象と関連づけて考えられるようにしましょう。

授業アドバイスシート

中学校数学② 参照

<取組例>

- ・「読書時間の傾向を捉えて説明しよう」

3 既習の問題や解決課程を用いて、統合的・発展的に考察する場面を設定しよう

設問9(2)「連続する5つの奇数の和が中央の奇数の5倍になることを説明する」の平均正答率は全国を上回ったものの、61.8%と低かった。また、無回答率も16.5%と高かった。



- ① 一旦解決された問題やその解決過程を振り返り、共通する性質を見いだす機会をもちましょう。
- ② 数学的概念を一般化したり拡張したりするなど、発展的に考察する場面を設定しましょう。

授業アドバイスシート

中学校数学③ 参照

<取組例>

- ・「連続する奇数の和について成り立つことは何だろう」

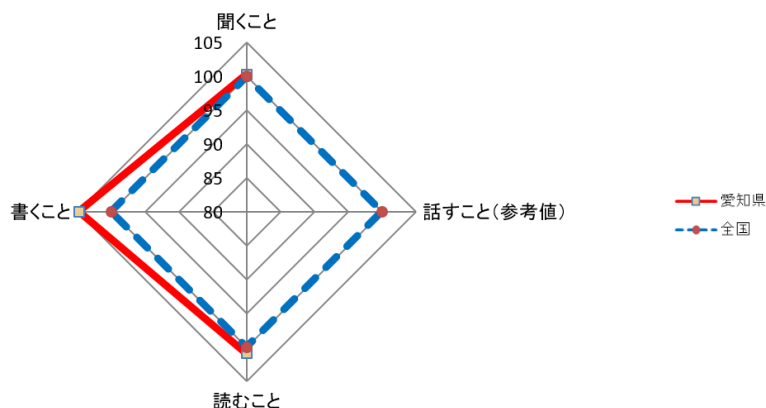
3 中学校英語の課題解決に向けて

(1) 英語の傾向（県の平均正答率は整数値で表示）

平均正答率 県 57% (国 56.0%)

ア 領域・評価観点・問題形式別で見た傾向（全国との比較から）

<全国を基準（100）とした比較> 令和元年度



<領域等・評価の観点・問題形式ごとの全国平均正答率との差> (%)

		令和元年度
領域	① 聞くこと	0.2
	② 話すこと	-0.2
	③ 読むこと	0.5
	④ 書くこと	2.2
評価観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	-0.1
	外国語表現の能力	0.2
	外国語理解の能力	0.1
	言語や文化についての知識・理解	1.4
問題形式	選択式	0.2
	短答式	4.0
	記述式	-0.1

- 全ての領域・観点において、全国を上回っている。
- 「書くこと」領域が全国より2.2ポイント高く、「3人称単数現在時制の肯定文を正確に書く」設問については、全国より7.6ポイント高い。
- △ 問題形式のうち、記述式問題の正答率についてのみ、0.1ポイント全国を下回っており、自分の意見を書いたり理由を述べたりすることに課題がある。

イ 無解答率から見た傾向（平均正答率が60%未満で、無解答率が10%以上の設問）(%)

設問番号	領域	形式	正答率	無解答率	設問番号	領域	形式	正答率	無解答率
4	①	記述	6.5	43.9	8	③	記述	11.7	26.9
9 (2) ②	④	短答	29.7	11.6	9 (3) ③	④	短答	42.1	11.0

無解答率の平均値は、5.9%（全国6.0%）であった。記述式問題での無解答率が26.4%とやや高い傾向が見られた。平均正答率が60%未満で、無解答率が10%以上の設問は4問で、正答率の低い記述式、短答式の問題において多く見られた。

(2) 中学校英語各問題の内容・結果と対応する領域

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				正答率(%)		
			聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと	愛知県(公立)	全国(公立)	愛知ー全国
1 (1)	ある状況を描写する英語を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する	語と語の連結による音変化をとらえて、情報を正確に聞き取ることができる	(7) (4)				91.6	91.1	0.5
1 (2)	教室英語を聞いて、その指示の内容を最も適切に表している絵を選択する	教室英語を理解して、情報を正確に聞き取ることができる	(7) (4)				90.6	88.6	2.0
1 (3)	外国人の先生と女子生徒の会話を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する	日常的话题について、情報を正確に聞き取ることができる	(7) (4)				73.2	72.3	0.9
1 (4)	家での会話を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する	日常的话题について、情報を正確に聞き取ることができる	(7) (4)				57.7	61.8	-4.1
2	イギリスと日本の類似点や相違点についてのスピーチを聞いて、話の展開に合わせて示す絵を並び替える	まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解することができる	(4)				74.0	71.8	2.2
3	天気予報を聞いて、ピクニックに行くのに最も適する曜日を選択する	まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を理解することができる	(4)				83.0	82.0	1.0
4	来日する留学生の音声メッセージを聞いて、部活動についてのアドバイスを書く	聞いて把握した内容について、適切に応じることができる	(4)				6.5	7.6	-1.1
5 (1)	ある場所を説明する英文を読んで、空所に入る語句として最も適切なものを選択する	日常的话题について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる			(4)		83.0	79.4	3.6
5 (2)	ある状況を描写する英文を読んで、その内容を最も適切に表している絵を選択する	日常的话题について、簡単な文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる			(4)		75.2	74.4	0.8
5 (3)	月ごとの平均気温を表したグラフを見て、その内容を正しく表している英文を選択する	日常的话题について、簡単な文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる			(4)		72.8	73.1	-0.3
6	発表活動のためにまとめられた100円ショップについての文章を読んで、話の流れを示すスライドとして最も適切なものを選択する	まとまりのある文章を読んで、話のあらすじを理解することができる			(4)		62.4	62.9	-0.5
7	チンパンジーに関する説明文とその前後にある対話を読んで、書き手が最も伝えたい内容を選択する	まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解することができる			(4)		31.4	32.8	-1.4
8	食糧問題について書かれた資料を読んで、その問題に対する自分の考えを書く	書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえることができる			(4)		11.7	10.9	0.8
9 (1) ①	文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択する	文の中で適切に接続詞を用いることができる			(7) (4)		81.5	79.9	1.6
9 (1) ②	文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択する	文の中で適切に接続詞を用いることができる			(7) (4)		54.4	58.2	-3.8
9 (2) ①	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書く	一般動詞の2人称単数現在時制の疑問文を正確に書くことができる			(7) (4)		76.3	73.6	2.7
9 (2) ②	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書く	一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書くことができる			(7) (4)		29.7	28.9	0.8
9 (3) ①	与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く	与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる			(7) (4)		57.3	53.5	3.8
9 (3) ②	与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く	与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる			(7) (4)		40.5	32.9	7.6
9 (3) ③	与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く	与えられた情報に基づいて、一般動詞の3人称単数現在時制の否定文を正確に書くことができる			(7) (4)		42.1	37.4	4.7
10	学校を表す2つのピクトグラム(案内用図記号)の案を比較して、どちらがよいか理由とともに意見を書く	与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができる			(4)		2.0	1.8	0.2

(3) 中学校英語の個別の課題と改善の方向性

全国学力・学習状況調査の分析から改善のための方向性をまとめました。以下のポイントを参考にして、各市町村・学校における課題の改善策を具体的に立案しましょう。また、別添の授業アドバイスシート等も活用して、授業改善を図りましょう。

1 適切な表現を用いて、正しく伝える力を高めよう

設問10「学校を表すピクトグラム（案内用図記号）の案を比較して、どちらがよいか理由とともに意見を書く」の平均正答率は、2.0%であり、全国を上回ったものの大変低かった。



- ① 言語活動を通して継続的に指導し、即興のやり取り等、話す、書くといった発信の言語活動の指導を充実させましょう。
- ② 英語による簡単なやり取りを繰り返し行い、対話の内容を英文で書き起こす等の活動を通して、英語の語や文法事項等を正しく理解する活動を充実させましょう。

授業アドバイスシート

中学校英語① 参照

<取組例>

- ・「Small Talk の内容を
書いて、整理し
よう」

2 相手からたずねられたことに対して適切に応じるために、聞き取る力を高める活動を充実させよう

設問4「留学生の音声メッセージを聞いて把握した内容について、適切に応じる」の平均正答率は6.5%と大変低く、全国と比較して-1.1ポイントの差があった。また無解答率は43.9%であった。



- ① 日頃から生徒と英語でやり取りする中で、実際に聞いて応じる活動を積み重ねましょう。
- ② 場面設定を工夫しながら、内容を踏まえて自分の考えを表現させる活動を充実させましょう。

授業アドバイスシート

中学校英語② 参照

<取組例>

- ・「来日予定の留学生
にアドバイスを書
こう」

3 英文で、書き手の一番伝えたいことを読み取る力を高めよう

設問7「まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解し、書き手が最も伝えたい内容を選択する」の平均正答率は31.4%と低く、全国と比較して-1.4ポイントの差があった。



- ・ 教科書の題材を用いて、以下のような手順で、書き手が最も伝えたいことを判断する活動に取り組みましょう。
 - 1 全体のおおまかな内容を捉える。
 - 2 各段階の最も大切な内容を表す英文を選ぶ。
 - 3 それらを比較するなどして、文章の最も大切な部分について意見交換する。

授業アドバイスシート

中学校英語③ 参照

<取組例>

- ・「『Read and Think』
を読んで、大切な
部分を選ぼう」